

東京大学工学部 正員 新谷洋二

1. まえがき

都市地域における将来の交通需要の予測方法として、最近パーソントリップ法が重視されるようになってきている。昨年、広島市およびその周辺13ヶ町からなる都市地域において、大規模に総合的な都市交通調査を実施した。この調査においては、パーソントリップを基本として、あわせて、車のトリップについても同時にその実態を把握するためのD調査を中心とし、同時に、人口・経済・土地利用・交通施設などに関する調査を実施し、それらの諸要素の関連の下に、現状解析から計画案の検討に至るまでの一連の作業を行なった。この際、パーソントリップを基礎として、各種交通機関に河する計画のバランスについて検討し、将来の交通施設計画と立案しようとして試みた。本報告は、この広島地域で行なわれた交通計画の方法について、その概要を報告する。

2. 計画方法の

この計画方法においては、次のような主要な点に留意した。

- ① パーソントリップを基本とし、あわせて、それと関連の下に、車のトリップを調査した。
- ② 対象地域内の全トリップの実態を把握するため、域内居住の人に対しては家庭訪問調査を行い、域外居住の人の域内関係トリップに対しては、コードン面接調査とともに、特に、大量輸送機関調査を実施した。
- ③ これらのトリップの調査結果の精度を検定するため、スクリーンライン調査、コードンライン調査などを実施した。また、家庭訪問調査結果の精度を検定するための国勢調査により、職業別・年令別分布に関してチェックを行なった。
- ④ パーソントリップに基づいて各種交通機関の利用のされ方を分析し、徒歩・自動車・バス・鉄道に関する交通機関別分担の作業を行ない、徒歩を除き、それらを各交通網に配分の上、検討した。
- ⑤ 土地利用においては、交通発生との関連において、建物の用途別^延床面積および土地の用途別面積の分析を行なった。また、それらと夜間人口または昼間人口との関連において分析を行なった。
- ⑥ フィードバックシステムについては、主として、比較計画案の作成と検討により、交通網の適否のチェックを行なうという方法により、計画案の検討を行なった。
- ⑦ 一般に、各段階においてチェックをし、計画の適合性を求めていく方針をとった。

3. 計画プロセス

この計画の全体的なプロセスは図-1に示した通りで、調査・解析・政策の決定・予測・立案・評価の段階から成っている。

計画方法の検討と問題点については会議当日に説明させて頂くとともに、今後、更に検討を進め、計画方法を確立する必要がある。なお、この研究に協力して頂いた中国地建・広島県・広島市の方々に謝意を表す。

